

学術 Weeks 2010 London 大学教育大学院

テーマ 「*Every Child Matters: What does it mean?*」 (通訳付)

エブリ・チャイルド・マターズ (政策提言書) の意味するもの

講師 : Dr. Janet Boddy (講師のプロフィールは裏面参照)

所属 : ロンドン大学 Institute of Education ・ Thomas Coram Research Unit 上級研究員

日時 : 2010年11月27日 (土) 14:00~16:00

場所 : 神戸大学大学院人間発達環境学研究科 A棟2階 大会議室

* 参加ご希望の方は、お名前・ご所属・連絡先を明記して、メールかFAXで担当者までお申し込みください*

申し込み先 : ヒューマンコミュニティ創成研究センター 寺村ゆかの

E-mail: yukano@sapphire.kobe-u.ac.jp FAX : 078-803-7971

講演内容：

2003年に公表された英国の政策提言書『Every Child Matters』がどのような意味をもたらしたか、一虐待対応において、諸機関の連携的取り組みやワーカーの育成、そして子どもと家庭への普遍的・介入的サービスなどを含む政策の変化—などをわかりやすく講演（通訳付き）していただく予定です。

講師略歴： 専門は児童心理学。1997年より **Institute of Education** に勤務。

子ども・若者とその家族に対するペアレンティングやその他の家庭支援サービスを専門的に研究。子どもと家庭を対象とした政策と施策に関する欧州全体にまたがる調査に関心がある。2000年以降は、トマス・コラン・リサーチ・ユニットの同僚とともに、「社会による教育（Social Pedagogy）」に関する調査を実施している。この調査には、養護されている子どもへの施策に関する欧州全体にまたがる研究、養護の「届きにくい」若者とその家庭に対する支援に関する研究、英語を母語としない国々におけるペアレンティング支援に関する研究が含まれている。

Every Child Matters 様々な専門機関とのコンタクトがあったにもかかわらず、当時8歳であった **Victoria Climbié** が大叔母から長期にわたる虐待を受けて死亡した事件を重く受け止め、政府が2003年に公表した政策提言書。福祉システムの画期的な改善の手引きとなり、子ども法の改正（2004）につながった。

<院生・学生ボランティア・スタッフの参加者募集について>

ボランティア内容としては、当日、講演会の受付や進行のお手伝いをお願いしたいと思います。

また、講師の研究に関心がある、一度話をしてみたいなど講師と交流したいと思われる方は、担当（寺村）までご相談ください。もちろんセミナーに参加だけでも歓迎です。

問い合わせ先：ヒューマンコミュニティ創成研究センター 寺村ゆかの 迄

Tel：078-803-7978

E-mail：yukano@sapphire.kobe-u.ac